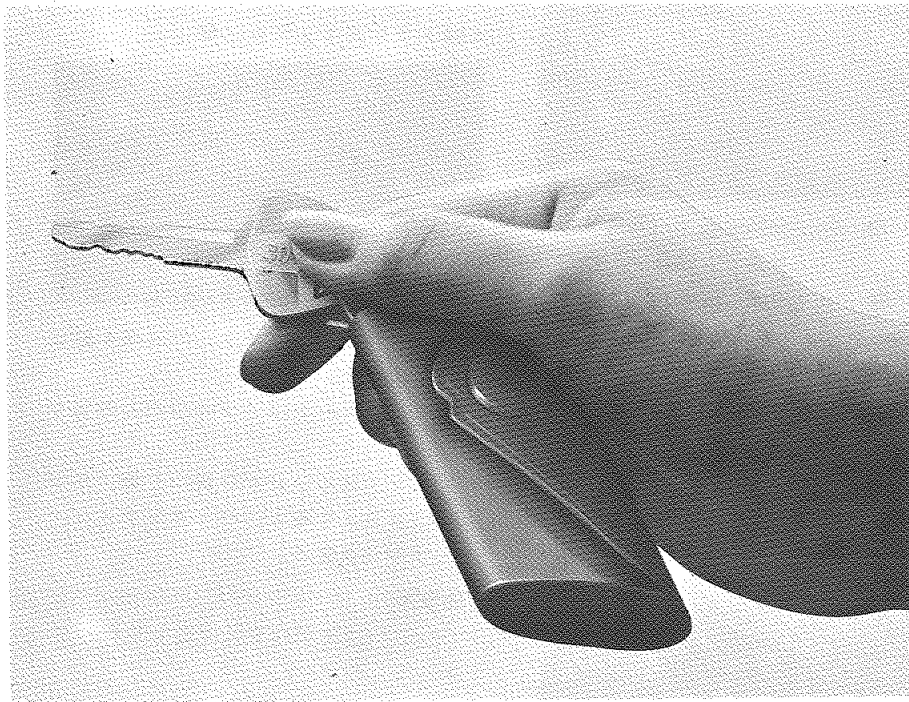


エンジンの始動

CORONA *MARK II 1700 / 1900*



■オートマチック・チョーク

トヨペット・コロナ・マークIIのキャブレターには、オートマチック・チョークがついています。このため、エンジンが冷えていると自動的にチョークされて、混合気が濃くなりエンジンの始動を容易にしております。

次の要領でエンジンを始動してください。

1. パーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルにします。
2. アクセル・ペダルをいっぱい踏み込んで離します。これでオートマチック・チョークが働き、温度に応じてチョーク・バルブが閉じます。

アクセル・ペダルを踏み込む要領は、外気温によって、次のように行なってください。

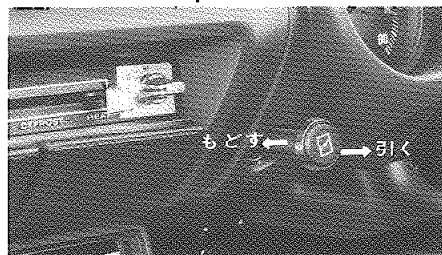
外 気 温	アクセル・ペダルの踏みこむ回数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい 1～2回
-10℃～-15℃	いっぱい 2～3回
-15℃以上	いっぱい 4回

- クラッチ・ペダルを踏み込んだ状態でエンジンを始動してください。
エンジンが始動した時アクセル・ペダルから足を離しておいてください。
- 始動後、暖機を十分行なってください。
このとき、オートマチック・チョークが働いてアイドリング回転数がいくぶん高目となり、暖機をたすけております。
- 暖機後、アクセル・ペダルを一度軽く踏んでください。これにより、オートマチック・チョークの働きがなくなり正規の回転数にもどります。

《注意》

- スターター・モーターは10秒以上使用しないでください。10秒以内で始動しない場合は30秒位休み、バッテリーの回復をまってから再始動してください。
- 始動後、エンジンの回転が円滑に持続しないときは、アクセル・ペダルを軽く踏み、回転が円滑になるよう助けてやってください。

■ SL・GSL車



SL・GSL車にはチョーク・ボタンがついています。引っぱり出すとチョークができます。

エンジンが暖たまっていない状態で始動が困難な場合に使用します。

エンジンが冷えていて始動困難の場合には次の要領で行なってください。

- チョークボタンをいっぱい引いてください。
- アクセル・ペダルを踏まないでスタータを回してください。
- 始動後もチョーク・ボタンをいっぱい引いたままで暖機運転ができます。

- 始動後、エンジンの回転数が2500r.p.m以上になったら、チョーク・ボタンを徐々にもどし、エンジンの回転数が、2000r.p.m程度になるように、チョーク・ボタンを調整して、充分暖機運転を行なってください。

《注意》

始動直後、エンジンの回転が円滑に持続しない場合は、アクセル・ペダルを踏みながら円滑に回転するようにしてください。

- エンジンが暖まり、チョークを使用しなくてもエンジンが円滑に回転するようになったら、チョーク・ボタンを元にもどしてください。